

平成 25 年度 第 2 回海域の物質循環健全化計画統括検討委員会における主な指摘と対応

委員名等	指摘内容	対応内容
海域のヘルシープラン策定の手引きの改訂、普及啓発について		
委員名	指摘内容	対応内容
松田座長、山本委員	(利用方法の追記について) ・地域で作成したヘルシープランを自治体の基本計画等に盛り込むような方向性についても手引きに記載したほうが良い	・「はじめに」の後に「手引きの利用方法」の項目を設け、ご指摘の事項を追記いたしました
寺島委員	・自然発生的に海域の改善を行うのではなく、海洋基本計画や瀬戸内法等の枠組みの中で、この手引きを活用できることも記載したほうが良い	
鈴木委員、松田座長	・港湾計画や海域開発、アセスの際の評価の一つのツールとして、ヘルシープランの考え方(手引き)を有効的に積極的に使っていくことを打ち出すべき	
松田座長	・手引きの使い方について、前段に記載してほしい	
藤原オブザーバ、松田座長	・冒頭の基本的な考え方について、東京湾の事例や三陸の事例があり抽象的である。 ・三河湾等の具体的な事例を示してはどうか。	・P4の「4. 物質循環の健全化に向けて」に三河湾の事例に修正しました。
中田(喜)委員	「ある経路が壊れても、他の経路を通じた循環が行える耐久力がある」という記載は違うのではないか。生物量の多さが重要ではないか。	・P11に生物種・量の観点を追記しました。
寺島委員	・海洋基本計画の記載については、最新の計画の概要を記載してほしい。	・P17に「地域の計画の構築に取り組む地方を支援する」ことも追記しました。
西村委員	・物質循環の健全化は海への関心が遠のいているため、意識改革をして地道な取り組みが必要である旨を記載してほしい。また、行政が取り組む場合には連携が必要であることも記載してほしい。	・「手引きの利用方法」及び、P64「方策実施のロードマップの作成」に追記しました。
三津湾の物質収支モデルによる解析結果及び精度向上について		
松田委員	・アマモが生えている計算領域の特徴は何かあるのか。アマモに関する今回の研究での結果を書いた方がいいのではないか。	・アマモの特徴についても整理しました。酸素の供給源となりますが、モデル上では、三津湾のN,Pには大きな変化は与えておりませんでした。
中田(喜)委員、藤原オブザーバ、松田座長	・アマモが数年前から急増しているとあり、モデルにはアマモが含まれていたが、アマモがないときと急増した時との違いは出てきているのか。三津湾では急増しているということなので、どのような変化があったのか ⇒海砂の回収をやめてSS(濁り)が下がった次の年から、今までは移植しても繁茂しなかったところで増加し始めた。	